

昼食会

2020.10.29

9月に生徒会役員選挙立会演説会があった。今年度、体育館に全校生徒が集うのは、校内球技大会に続きまだ二度目である。通常よりも生徒同士の距離をとるのは、もはや当たり前となっている。

今回は、1年生から3名、2年生から4名が役員に立候補した。それぞれ壇上にて演説を行ったが、全校生がそれをじっくりと聴いていたことが印象に残った。演説の内容もよかったのだが、それだけではない気がした。

特に、1年生の演説は、中身がよく切々と訴える感じのものだった。話し方がうまいかどうかの問題ではなかった。決して背伸びをしているわけではなく、等身大の演説であった。

めでたく7名全員が信任され、はれて新しい生徒会役員となった。早速、新しい生徒会長と話をした。どんな学校にしたいのか、どんなことをやりたいのか、会長としての思いを聞いた。校長である私の方も、考えていることを彼に伝えた。

私からの提案の一つに、生徒会役員と校長が、一緒にお昼ご飯を食べるというものがあった。校長室でご飯を食べながら、役員として考えていることを聞くというものである。そこから、新たにこんなことをしたいということも出てくるかもしれない。会議や打合せのような場での話し合いも重要だが、気軽にご飯を食べながらの方がアイデアが出やすいかもしれない。

とはいっても、生徒は校長室に入るだけで緊張するものである。まずは、2年生の4名と昼食会を行った。それまでに、会長とは何度も話をしてきたので、彼がどんなことを考えているのかは分かっている。他の3名の考えを聞くのは、この日が初めてとなった。

聞いてみると、3名とも明確な考えをもっていることがわかった。次の段階として、考えていることが実現できるかどうかの検討に入りたいと考えた。話し合いの結果、生徒会として、まず取り組むことを決め、中期的には、次年度の文化祭をどうするかについて検討を重ねていくことになった。

「鉄は熱いうちに打て」である。役員となり、燃えているうちに行動を起こせるようにしたかった。その後も、会長とは話を継続している。

第二弾として、会長ならびに1年生の役員との昼食会も開催した。1年生は、1年生なりの考えをもっており、これも聞いてみないと分からないことだった。1年生の積極性は、これからも生徒会活動のためになると感じた。

まず取り組むことの第一弾として、「生徒会だより」の発行を考えた。これは先日、無事に第1号が出された。次は、年間のスローガンである。現在のところ案として、“百花梁乱”というものが挙がっている。「百花繚乱」の「繚」を梁川の「梁」にしてある。百花繚乱とは、種々の花が咲き乱れることである。比喩的には、すぐれた業績や人物が一時期にたくさん現れることである。いい言葉だと思った。発案者がすばらしい。

これからも昼食会を継続し、生徒と校長がお昼ご飯を食べているのが当たり前にしていきたいと考えている。これも本校ならではの取り組みの一つである。